一九九六年度国文学会彙報

一九九六年度国文学会活動状況

〈新入生歓迎会〉　四月四日　新島会館　学生部会主催

〈国文学会総会、研究発表会〉　六月二三日　至誠館会議室

・総会

・研究発表会

戦時下の能『忠霊』について
林　了子（本学大学院博士課程前期課程）

『日葡辞書』所収の音象徴語のタイプについて
平弥悠紀（本学大学院博士課程後期課程）

『大御葬歌』は歌われたか
藤原享和（同志社高等学校教諭）

『太平記評判』について―太平記受容史の一側面
加美　宏（本学教授）

〈講演会〉　一〇月一三日　明徳館M1教室　院生部会・学生部会共催

綾辻行人氏（作家）を囲む

〈同志社国文学〉

第四五号　一九九六年一二月二五日発行

第四六号　一九九七年三月二〇日発行

〈国文学会会報〉　第二四号　一九九七年三月二〇日発行

一九九六年度修士論文題目

高橋虫麻呂の作歌態度に関する一考察
――ヲトメの歌を中心に――　中西優子

『大鏡』「すべらぎのあと」考　藤木真澄

現代日本語における和語三拍名詞の音韻構造　入江さやか

日本語学習者から見た辞書の効用と問題点
CHAKRAVARTI. F. SUMATI

一九九六年度卒業論文題目

天の岩屋戸神話の形成　高野昌彦

万葉集の「羈旅歌」における高市黒人の位置について
――高市黒人の羈旅歌八首を中心に――　山岸聡美

「太宰帥大伴卿讃酒歌」について　富田寧

大伴旅人作「幸芳野離宮時」の歌の考察　寺西良祐

高橋虫麻呂論
――珠名・真間娘子の歌の主観表現――　小林和照

山部赤人の吉野讃歌　福江秀教

防人歌　堀宗武
「萬葉集」における秀節歌と景物
——霧と霞を中心に——　二渡宏之
『江談抄』八三条「可然人着奴袴不着事」考　鵜飼真理
『江談抄』一三〇条・一三一条考　堀之内健二
群書類従本『江談抄』第一三五条考　栗原浩介
中世における女性像　西尾晋一
『宇治拾遺物語』
——視点に関する一考察——　吉川也須子
『宇治拾遺物語』の特質と編者の視点について　久保彩
『宇治拾遺物語』と昔話
——説教僧の変質——　野中佐知子
宇治拾遺物語の仏教性に関する一考察
八代集にみるさしも草
——燃焼表現について——　高瀬恭三
木曽義仲の人物像　山内ゆか
『平家物語』における清盛の人物造形
——君子人重盛との対比——　井上将弘
『平家物語』における清盛像の特質　西城京子
「敦盛最期」における諸問題　上杉嘉智
『平家物語』覚一本における忠度の役割　中村朱里
延慶本『平家物語』の頼朝像
——「おそろし」・「ゆゆし」の用例をめぐって——　河野真樹
『閑居友』にみる慶政像とその思想　戸崎志峰
撰集抄にみる西行像　瀧田光穂
徒然草における兼好の人間観と兼好像　黒田靖子
『義経記』における人物像　大川敬子
『清水冠者物語』の成立とその物語性について　石井恵子
物くさ太郎　横田敦子
『御伽草子』にみる中世の観音信仰と影響　田中孝明
芭蕉『古池や』の句論　松田享子
「旅に病んで」の句を巡って
——辞世論争——　西真美
「日本永代蔵」の創作意図
——巻一の五の問題点を通して——　西川美保
「日本永代蔵」における教訓　吉本理恵
『心中天の網島』考察
——篠原進「『心中天の網島』ノート」を中心に——　北村麻奈
『曾根崎心中』の「観音廻り」論　木村秀雄
『心中天の網島』と改作
——それぞれの意図——　大野麻里
『復讐後祭祀』の意図と『江戸生艶気樺焼』　林百恵
　小松華子

『仮名手本忠臣蔵』とその改作物との比較
——趣向の取り入れ方について——　谷地舘　和賀子

洒落本が作り上げる空間
——空間演出家としての山東京伝——　黒川　拓一

廓文章について
——上方歌舞伎において——　浦口　真有佳

寛政の改革を境に存在した二つの金々先生
——黄表紙の創始と終焉——　藤野　直美

『雨月物語』における怪異表現の方法　竹井　久美

『解脱衣楓累』の方法
——累ものの展開の中で——　鶴原　利恵

「猿之助歌舞伎」への期待　大橋　仁美

上方舞『貴船』の特性
——能『鉄輪』との比較を中心に——　平井　宏則

『花月』天狗幻想　山中　牧子

江戸の引札文化　福井　章子

岡本綺堂における近松心中物の受容とその脚色方法
——『二枚絵草紙』と『天の網島』を中心に——　渡邊　千尋

『日本橋』論
——お孝と清葉、そして鏡花と日本橋——　日高　麻里

徳田秋声「あらくれ」論
——描写方法や技巧から——　森　由貴子

谷崎潤一郎、大正期の〈語り〉　瀬崎　圭二

「人間椅子」論
——「見える」「見えない」の問題——　八木　夏子

宮沢賢治「グスコーブドリの伝記」論
——四次元芸術の観点から——　三上　直史

小林秀雄とポール・ヴァレリーの比較
——「焦点型」と「構築型」——　山崎　恭宏

北条民雄「いのちの初夜」論
——癩文学から離れて——　政道　敦

新美南吉における〈古いもの〉と〈新しいもの〉　馬淵　未央

中島敦と道家思想　合田　リサ

太宰治「お伽草紙」論　大垣　弥生

「白痴」論　掘　久治

坂口安吾の異界の女
——説話小説を中心に——　中江　舞湖

『二十億光年の孤独』における語句の分析と考察
——〈神〉と〈祈り〉——　波佐場　春香

寺山修司論
——懐かしい前衛詩人——　高島　律子

メタフィクションの構造
——筒井康隆論——　北畑糸枝
「破壊」
——コインロッカー・ベイビーズをめぐって——　栗田克明
山田詠美作品における「大人」と「子供」　山本敬子
鈴木いづみ「ハートに火をつけて！　だれが消す」論
——鈴木いづみの〈キャンプ〉的感覚について——　高橋貴美江
『スズキさんの休息と遍歴』論
——作品構造にみるハードボイルド
スズキさんはドン・キホーテだったか？——　薮内貴広
近代以降の小説・戯曲の題名の考察
——句を中心に——　真仁田栄治
近・現代作家の使用した助詞「に」と「へ」について　小林英樹
明治時代初期の新聞の文字、用語、文体の研究　梅谷暢子
占領下における言語改革
——米国教育使節団を追って——　上提奨悟
日本語と外国語の親族名称の使用法の対照研究
——中国語・韓国語・タイ語——　楠原未久
女性の書き言葉について　岡嶋弓恵
動物に関する〈助数詞〉について　澤田糸美
現代におけるオノマトペ使用状況について　山本笑
新聞における敬語の使用状況について　平野恵
日本語教育教材の分析　亀井佐代子
国語と日本語の教科書における漢字の提出順序の考察　橘紀子
幼児におけるコミュニケーション能力の発達　高地映利香
日本の名付け
——日・韓比較を交えて——　芳多史江
手話の言語的特徴と語数不足の補完法について　金田慶子